

# 京のみどり

2016

夏

79号

・特集・

失われた巨大池が伝えるもの

おぐら いけ

## 巨椋池の軌跡を辿る〔伏見区〕

訪ねてみよう京の庭  
南禅寺方丈庭園

京のまちに雨庭をつくらう！

〔第二回〕雨庭とは？

協会掲示板

協会ニュース

梅小路公園「いのちの森」開園20周年

〔第二回〕いのちの森の観察会

京のくらしを彩るみどり

和傘

宝が池公園こどもの楽園

宝が池フレイパーク

おさんぽおやつ

枝豆の冷やしミルク寒天

# 和傘 夏の和装の必需品

春夏秋冬、私たちのくらしにそっと寄り添い、くらしを支え、彩るみどりたち。夏の日差しや、突然の夕立に出合った時の強い味方、“和傘”について紹介します。

## 和傘の魅力

傘が雨具として日常生活で使われるようになったのは、江戸時代に入ってから。始めこそシンブルな番傘が多かったようですが、時代と共に装飾がある蛇の目傘も登場し、装いの一部として楽しむ道具となっていきました。

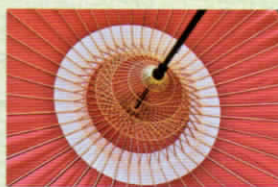
「蛇の目傘の内側、骨組を結ぶ絹糸は非常に色鮮やか。恐らく人に見せる為ではなく、傘をさしている人が楽しむための工夫です」と語るのは老舗和傘店日吉屋の平山大輔さん。雨で憂鬱な気分を少しでも晴れやかに、という先人の遊び心に和傘の魅力を感じます。

全て天然素材の無垢材を用い、手作業で作られているので、同じように仕上がる和傘は一つとしてありません。また、長く使った和傘が変色することを「枯れる」といい、枯れた傘を使う方が粋だとされます。他のどれとも違う上に、使うほどに馴染む。そんな和傘の性質に、日本人らしい美意識が感じられます。



【チシャノキ】  
ムラサキ科の植物。木が柿の皮に似て、葉は緑のダマシと呼ばれる。

骨組と和紙をつなぐ絹糸に装飾があるものを蛇の目傘と呼ぶ



## 和傘の材料

和傘の「ろくろ」という部分にはチシャノキが使われます。細かく溝を彫っても割れない粘り強さと、加工しやすい柔らかさがその理由です。和傘に使われるものは主に岐阜県産。岐阜より北の材は雪で曲がり、南の材は節が多いため、岐阜県産のものが最も適しているのです。

和傘は材の組み合わせによって仕上がりが大きく変化するので、職人は確固たる仕上がりイメージの下、材を選択し、全体のバランスを見ながら制作します。材と仕上がりにズレが生じないように、部材の組み上げを一人の職人が担当するのも和傘作りの特徴です。

むしろと暑い京都の夏。照りつける太陽や夕立に悩まされる季節ですが、いつもの洋傘と一味違う和傘を持って出かけてみてはいかがでしょうか。

溝が細かく入ったろくろ

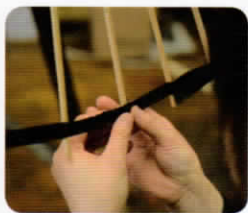


## “和傘”ができるまで



### ① 下事

針と糸を使って、ろくろに骨組みをつないでいく。



### ② 軒紙張り

骨組の間隔を均等にした後、傘のふちにあたる部分に和紙を張る。



### ③ 胴張り

和傘本体に和紙を張っていく。張り終わったら骨組に沿って筋を付ける。

取材協力：日吉屋  
京都市上京区寺之内通堀川東入百々町 546  
TEL：075-441-6644



### ④ 油引き・天日干し

亜麻仁油を塗り、天日干しをすれば完成。左が蛇の目傘、右が番傘。

## 和傘ってどん+なもの？

傘は元々、祭事用品でした。江戸時代に中国からろくろの技術が伝来し、傘の折りたたみと小型化が実現。手に持って使う傘が広まりました。日吉屋では和傘の技術を生かしたランプシェードなども制作・販売し、伝統技術を後世に伝えるため、時代に合った商品作りに挑戦しています。



和風ながらどこかモダンなデザインが人気のランプシェード